

## 【日本及び中国と米国及び新興国間の貿易の状況】

最近の日本の輸出額(ドルベース、季節調整済み、以下同様)の推移をみると、20年10～12月期に前期比▲11.9%と2桁の減少となり、21年1～3月期は同▲29.0%と減少幅が拡大したが、翌4～6月期(同9.9%)及び7～9月期(同9.5%)は2期連続で9%台の増加となった(第Ⅱ-3-8図)。

日本の輸出額における、20年10～12月期及び21年1～3月期の減少はBRICs、アジア、北米、EU25の減少寄与が大きかった。21年4～6月期及び7～9月期の伸びはBRICs、アジア、北米の増加寄与が大きく、BRICsの伸びは主に中国(香港を含む、以下同様)向け、アジアの伸びは主に韓国、台湾、タイ向けの増加寄与による。なお、21年1～3月期及び4～6月期の伸び率を単純平均すると、アジア、BRICs、VISTA、北米が2桁台の伸び率となっている(第Ⅱ-3-6表)。

本稿では最初に、直近の日本の地域及び国別・品目別の輸出動向を確認する。日本の輸出動向は、従来から米国経済に左右される傾向がみられ、過去の産業活動分析においても日本のアジアを経由した米国向け貿易について幾度か触れてきている。そこで今回は、日本の輸出額において存在感を増しつつある新興国(BRICs、VISTA)との貿易額について着目し、急速に増加している中国とこれら諸国との貿易額を比較してみる。

第Ⅱ-3-8図 日本の輸出額の推移(前期比寄与度、季節調整済、ドルベース)



- (注) 1. 輸出額の季節調整はX-11 デフォルトにより独自に行っている(以下同様)。  
 2. BRICsは、ブラジル、ロシア、インド、中国である。中国には香港を含んでいる(以下同様)。  
 3. VISTAは、ベトナム、インドネシア、南アフリカ、トルコ、アルゼンチンである(以下同様)。BRICsに続く新興国の分類は様々あるが、そのなかでも近年知名度が高いものとしてVISTAが挙げられる。  
 資料:「World Trade Atlas」(米GTI社)

第Ⅱ-3-6表 日本の輸出額(季節調整済、ドルベース)

	輸出額(100万ドル)					前期比(%)				
	20年		21年			20年	21年			
	Ⅲ期	Ⅳ期	Ⅰ期	Ⅱ期	Ⅲ期	Ⅳ期	Ⅰ期	Ⅱ期	Ⅲ期	Ⅱ期・Ⅲ期の単純平均
世界計	197,223	173,756	123,285	135,481	148,323	▲ 11.9	▲ 29.0	9.9	9.5	9.7
アジア	48,621	40,558	29,960	33,434	39,078	▲ 16.6	▲ 26.1	11.6	16.9	14.2
他のアジア	1,196	925	767	818	840	▲ 22.6	▲ 17.1	6.7	2.6	4.6
中近東	8,803	8,813	5,321	4,930	5,180	0.1	▲ 39.6	▲ 7.3	5.1	▲ 1.1
北米	35,533	33,000	21,290	24,001	26,170	▲ 7.1	▲ 35.5	12.7	9.0	10.9
中南米	8,554	8,178	7,088	6,280	6,549	▲ 4.4	▲ 13.3	▲ 11.4	4.3	▲ 3.6
EU25	27,459	23,154	16,257	17,118	17,791	▲ 15.7	▲ 29.8	5.3	3.9	4.6
他の欧州	2,360	1,772	1,854	1,912	2,170	▲ 24.9	4.6	3.1	13.5	8.3
BRICs	50,273	42,905	31,524	37,032	39,925	▲ 14.7	▲ 26.5	17.5	7.8	12.6
VISTA	7,255	6,812	4,122	4,757	5,174	▲ 6.1	▲ 39.5	15.4	8.8	12.1
その他	7,521	7,000	5,207	5,039	5,553	▲ 6.9	▲ 25.6	▲ 3.2	10.2	3.5

(注)21年4～6月期及び7～9月期の前期比の単純平均がプラス10%以上の地域に網掛けを施した。

資料:「World Trade Atlas」(米GTI社)

### (1) 日本の地域及び国別・品目別輸出額

～当期の日本の輸出額は、中国向け輸送機械などの伸びにより増加～

日本の輸出額における21年7～9月期の前期比に対する地域及び国別・品目別増加寄与度を確認した。ここでは輸出額をHS2桁ベースで13品目<sup>注)</sup>に格付けし、前期比寄与率が20%以上の品目を選択し表にまとめた。なお、日本からの輸出額が減少した国については増加寄与度が大きい品目を選択している。

日本の輸出額において、21年7～9月期の前期比に対する増加寄与度が大きい4か国をみると、中国向けは輸送機械(自動車部品、乗用車)及び電気機械(集積回路、ラジオ放送用又はテレビジョン用の送信機器等)、韓国向けは一般機械(半導体製造装置)及びその他の製造品(プラスチック板、板ガラス等)、台湾向けはその他の製造品(プラスチック板、板ガラス等)、タイ向けは鉄鋼(フラットロール製品)、輸送機械(自動車部品)及び電気機械(ラジオ放送用又はテレビジョン用の送受信機器の部品、集積回路)、米国向けは輸送機械(乗用車)の増加寄与が大きい(第Ⅱ-3-7表)。

また、BRICs向け輸出額を同様にみると、輸送機械及び電気機械の増加寄与が大きい。内訳各国をみると、中国向けは前述の通り輸送機械及び電気機械、ブラジル向けは一般機械(金属圧延機等)及び電気機械(電気制御用パネル等)、インド向けは一般機械(液体ポンプ、エンジン部品等)、ロシア向けは増加となった品目のなかでは繊維(紡績用繊維等)及びその他の製造品(ゴムタイヤ)の増加寄与が大きい。

注) ここではHS2桁ベース輸出額を次の13品目に格付けており、表中の計はこの13品目の計である。13品目とは、食料品、繊維、化学、石油石炭、木材紙パルプ、鉄鋼、非鉄金属、一般機械、電気機械、輸送機械、精密機械、その他の製造品、その他である。

同様にVISTA向け輸出額をみると、輸送機械、電気機械及びその他の製造品の増加寄与が大きい。内訳については、20年で日本のVISTA向け輸出額のうち、約7割をインドネシア及びベトナム向けが占めるため、これ以降の内訳はこの2ヶ国についてみることにする。ベトナム向けは鉄鋼(フラットロール製品)、電気機械(電話機及びLAN通信機器等)及び輸送機械(貨物自動車)、インドネシア向けは電気機械(電気回路の開閉用機器等)及び一般機械(蒸気タービン)の増加寄与が大きい。

第Ⅱ-3-7表 日本の地域別国別の品目別輸出額の前期比寄与度一覧  
(季節調整済み、ドルベース)

1. 21年7～9月期の日本の輸出額の増加寄与度が大きい国

中国向け	輸出額 (100万ドル)				前期比寄与度 (%ポイント)			同寄与率 (%)	21年Ⅲ期 増加寄与度の大きいHS4桁品目
	20年	21年			21年				
	Ⅳ期	Ⅰ期	Ⅱ期	Ⅲ期	Ⅰ期	Ⅱ期	Ⅲ期	Ⅲ期	
計	36,230	28,256	33,900	36,732	▲ 22.0	20.0	8.4	100.0	
電気機械	9,714	7,360	9,288	9,908	▲ 6.5	6.8	1.8	21.9	8542 集積回路 8525 ラジオ放送用又はテレビジョン用の送信機器等 8536 電気回路の開閉用機器等(使用電圧が1,000ボルト以下のもの)並びに光ファイバー等
輸送機械	2,869	1,676	2,573	3,451	▲ 3.3	3.2	2.6	31.0	8708 自動車の部分品及び附属品 8703 乗用自動車その他の自動車

韓国向け	輸出額 (100万ドル)				前期比寄与度 (%ポイント)			同寄与率 (%)	21年Ⅲ期 増加寄与度の大きいHS4桁品目
	20年	21年			21年				
	Ⅳ期	Ⅰ期	Ⅱ期	Ⅲ期	Ⅰ期	Ⅱ期	Ⅲ期	Ⅲ期	
計	12,227	10,166	10,977	12,318	▲ 16.9	8.0	12.2	100.0	
一般機械	2,593	1,847	1,349	1,857	▲ 6.1	▲ 4.9	4.6	37.9	8486 半導体製造装置
その他の製造品	1,463	1,368	1,703	2,011	▲ 0.8	3.3	2.8	23.0	3920 プラスチック製のその他の板、フィルム等 7004 引上げ法又は吹上げ法により製造した板ガラス

台湾向け	輸出額 (100万ドル)				前期比寄与度 (%ポイント)			同寄与率 (%)	21年Ⅲ期 増加寄与度の大きいHS4桁品目
	20年	21年			21年				
	Ⅳ期	Ⅰ期	Ⅱ期	Ⅲ期	Ⅰ期	Ⅱ期	Ⅲ期	Ⅲ期	
計	9,304	6,955	8,323	9,492	▲ 25.3	19.7	14.0	100.0	
その他の製造品	1,005	836	1,230	1,484	▲ 1.8	5.7	3.1	21.8	3920 プラスチック製のその他の板、フィルム等 7004 引上げ法又は吹上げ法により製造した板ガラス

タイ向け	輸出額 (100万ドル)				前期比寄与度 (%ポイント)			同寄与率 (%)	21年Ⅲ期 増加寄与度の大きいHS4桁品目
	20年	21年			21年				
	Ⅳ期	Ⅰ期	Ⅱ期	Ⅲ期	Ⅰ期	Ⅱ期	Ⅲ期	Ⅲ期	
計	7,215	4,221	4,670	5,770	▲ 41.5	10.6	23.6	100.0	
鉄鋼	1,447	633	485	788	▲ 11.3	▲ 3.5	6.5	27.6	7208 鉄又は非合金鋼のフラットロール製品(熱間圧延したもので幅が600ミリメートル以上のもの) 7210 鉄又は非合金鋼のフラットロール製品(クラッドし、めつきし又は被覆したもので、幅が600ミリメートル以上のもの)
電気機械	1,270	773	1,128	1,361	▲ 6.9	8.4	5.0	21.1	8529 ラジオ放送用又はテレビジョン用の送受信機器の部分品 8542 集積回路
輸送機械	850	488	476	760	▲ 5.0	▲ 0.3	6.1	25.8	8708 自動車の部分品及び附属品

米国向け	輸出額 (100万ドル)				前期比寄与度 (%ポイント)			同寄与率 (%)	21年Ⅲ期 増加寄与度の大きいHS4桁品目
	20年	21年			21年				
	Ⅳ期	Ⅰ期	Ⅱ期	Ⅲ期	Ⅰ期	Ⅱ期	Ⅲ期	Ⅲ期	
計	30,463	19,603	22,185	24,086	▲ 35.6	13.2	8.6	100.0	
輸送機械	10,892	5,591	7,913	9,489	▲ 17.4	11.8	7.1	82.9	8703 乗用自動車その他の自動車

2. その他のBRICs、VISTA  
 <BRICs向け(中国向けは既出)>

BRICs向け	輸出額 (100万ドル)				前期比寄与度 (%ポイント)			同寄与 率(%)	21年Ⅲ期 増加寄与度の大きいHS4桁品目
	21年				21年			21年	
	Ⅳ期	Ⅰ期	Ⅱ期	Ⅲ期	Ⅰ期	Ⅱ期	Ⅲ期	Ⅲ期	
計	43,024	31,494	37,053	39,989	▲26.8	17.7	7.9	100.0	
電気機械	10,220	7,726	9,705	10,338	▲5.8	6.3	1.7	21.5	
輸送機械	6,127	2,527	3,269	4,159	▲8.4	2.4	2.4	30.3	

ブラジル向け	輸出額 (100万ドル)				前期比寄与度 (%ポイント)			同寄与 率(%)	21年Ⅲ期 増加寄与度の大きいHS4桁品目
	21年				21年			21年	
	Ⅳ期	Ⅰ期	Ⅱ期	Ⅲ期	Ⅰ期	Ⅱ期	Ⅲ期	Ⅲ期	
計	1,542	848	960	1,089	▲45.0	13.2	13.4	100.0	
一般機械	507	266	313	367	▲15.6	5.5	5.6	41.9	8455 金属圧延機及びそのロール
電気機械	160	92	105	132	▲4.4	1.6	2.8	20.5	8537 電気制御用又は配電用パネル等

ロシア向け	輸出額 (100万ドル)				前期比寄与度 (%ポイント)			同寄与 率(%)	21年Ⅲ期 増加寄与度の大きいHS4桁品目
	21年				21年			21年	
	Ⅳ期	Ⅰ期	Ⅱ期	Ⅲ期	Ⅰ期	Ⅱ期	Ⅲ期	Ⅲ期	
計	3,512	979	699	661	▲72.1	▲28.6	▲5.4	100.0	
繊維	9	10	6	9	0.0	▲0.4	0.5	▲8.9	5601 紡織用繊維のウォッシング及びその製品等 5502 再生繊維又は半合成繊維の長繊維のトウ
その他の製造品	139	102	76	80	▲1.0	▲2.6	0.5	▲9.0	4011 ゴム製の空気タイヤ(新品のもの)

インド向け	輸出額 (100万ドル)				前期比寄与度 (%ポイント)			同寄与 率(%)	21年Ⅲ期 増加寄与度の大きいHS4桁品目
	21年				21年			21年	
	Ⅳ期	Ⅰ期	Ⅱ期	Ⅲ期	Ⅰ期	Ⅱ期	Ⅲ期	Ⅲ期	
計	1,776	1,375	1,483	1,577	▲22.6	7.8	6.3	100.0	
一般機械	593	407	355	394	▲10.5	▲3.8	2.6	40.9	8413 液体ポンプ等 8409 ピストン式火花点火内燃機関又はピストン式圧縮点火内燃機関のエンジンに専ら又は主として使用する部分品

<VISTA向け>

VISTA向け	輸出額 (100万ドル)				前期比寄与度 (%ポイント)			同寄与 率(%)	21年Ⅲ期 増加寄与度の大きいHS4桁品目
	21年				21年			21年	
	Ⅳ期	Ⅰ期	Ⅱ期	Ⅲ期	Ⅰ期	Ⅱ期	Ⅲ期	Ⅲ期	
計	6,812	4,122	4,757	5,174	▲39.5	15.4	8.8	100.0	
電気機械	870	547	635	775	▲4.7	2.1	3.0	33.7	
輸送機械	1,411	661	809	953	▲11.0	3.6	3.0	34.4	
その他の製造品	619	458	514	599	▲2.4	1.4	1.8	20.4	

うちベトナム向け	輸出額 (100万ドル)				前期比寄与度 (%ポイント)			同寄与 率(%)	21年Ⅲ期 増加寄与度の大きいHS4桁品目
	21年				21年			21年	
	Ⅳ期	Ⅰ期	Ⅱ期	Ⅲ期	Ⅰ期	Ⅱ期	Ⅲ期	Ⅲ期	
計	1,697	1,273	1,491	1,734	▲25.0	17.1	16.3	100.0	
鉄鋼	230	166	217	323	▲3.8	4.1	7.1	43.5	7208 鉄又は非合金鋼のフラットロール製品(熱間圧延したもので幅が600ミリメートル以上のもの)
電気機械	321	233	250	305	▲5.2	1.4	3.6	22.2	8517 電話機及びその他の機器(LAN又はWAN用の通信機器を含む。)
輸送機械	89	57	71	120	▲1.9	1.1	3.3	20.1	8704 貨物自動車

うちインドネシア向け	輸出額 (100万ドル)				前期比寄与度 (%ポイント)			同寄与 率(%)	21年Ⅲ期 増加寄与度の大きいHS4桁品目
	21年				21年			21年	
	Ⅳ期	Ⅰ期	Ⅱ期	Ⅲ期	Ⅰ期	Ⅱ期	Ⅲ期	Ⅲ期	
計	3,228	1,844	2,154	2,290	▲42.9	16.8	6.3	100.0	
一般機械	995	543	533	570	▲14.0	▲0.5	1.7	26.7	8406 蒸気タービン
電気機械	378	204	271	346	▲5.4	3.7	3.5	55.2	8535 電気回路の開閉用機器等(使用電圧が1,000ボルトを超えるもの)

(注)HS2桁品目を13品目に格付け、21年7~9月期の前期比寄与度で、増加寄与率20%以上の品目を選択した。なお、21年7~9月期の全体の前期比が減少した国は増加寄与度が大きい品目を選択し、網掛けを施した。

資料:「World Trade Atlas」(米GTI社)

## (2) 日本及び中国の米国、新興国との貿易額の動向

### ①BRICs、VISTAの人口、面積、GDPに係る規模

#### ～世界のなかで大きな規模を占めるBRICs～

BRICs、VISTAの人口(18年年央推計人口、以下同様)<sup>注1)</sup>は、BRICsが約27億6千万人、VISTAが約4億7千万人であり、合わせて約32億3千万人と世界人口(約65億9千万人)の約半分を占めている。また、面積<sup>注2)</sup>はBRICsが約3800万km<sup>2</sup>、VISTAが約700万km<sup>2</sup>であり、合わせて約4600万km<sup>2</sup>と世界各国の面積計(1億3600万km<sup>2</sup>)のうち約3分の1を占める。また20年の名目GDP<sup>注3)</sup>は、BRICsが約8.9兆ドル、VISTAが約1.9兆ドルとなり、合わせて約10.8兆ドルと米国の名目GDPの約4分の3の規模となっている。

このように新興国(BRICs、VISTA)は世界に占める人口、面積の規模は大変に大きく、名目GDPも大きい。なお、BRICs、VISTAのうちではBRICsの規模が著しく大きく、中でも中国の割合が突出している(上記の各指標について、中国はBRICsのうち、人口及び名目GDPでは約半分の、面積では約4分の1を占めている)。

### ②中国の対世界貿易額

#### ～対世界貿易の中で位置づけを高める中国～

G8及び中国の対世界輸出額の推移をみると、19年は9年に比べて中国は約4.6倍、ロシアが約4.0倍と大きく拡大した。日本は約1.7倍の拡大となっている(第Ⅱ-3-9図)。

世界の輸出額に占める上記各国の対世界輸出額の構成比をみると、19年で最もシェアの大きいドイツは10.2%を占め、9年に比べ0.7%ポイントとわずかに拡大した。次いでシェアの大きい中国は9.4%を占め、9年に比べ4.6%ポイントの拡大となった。日本は5.5%を占め、9年に比べ▲2.3%ポイントの縮小となった。

一方、対世界輸入額の推移をみると、19年は9年に比べて中国は約3.7倍と大きく拡大した。日本は約1.8倍の拡大となっている。

世界の輸入額に占める上記各国の対世界輸入額の構成比をみると、19年で最もシェアの大きい米国は14.9%を占め、9年に比べ▲0.9%ポイントの縮小となった。次いでシェアの大きい中国は10.1%を占め、9年に比べ3.6%ポイントの拡大となった。日本は4.7%を占め、9年に比べ▲1.5%ポイントの縮小となった。

---

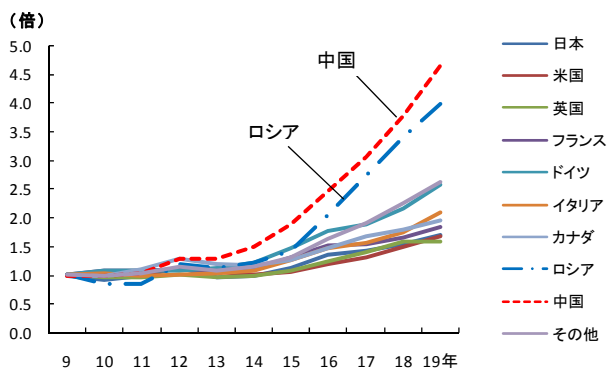
注1、注2、注3) 人口、面積は「世界の統計」(総務省)による。名目GDPは「国・地域別情報(J-FILE)」(JETRO)による。四捨五入の関係で内訳計と合計で誤差のある場合がある。

このように、対世界輸出額及び輸入額ともに、中国がその規模を急速に拡大させていることがわかる。

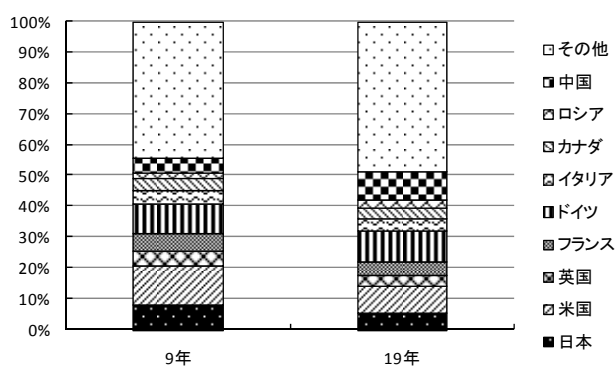
### 第Ⅱ-3-9図 世界の貿易額(G8及び中国の各国)

#### <輸出額>

##### 対世界輸出額の対9年比

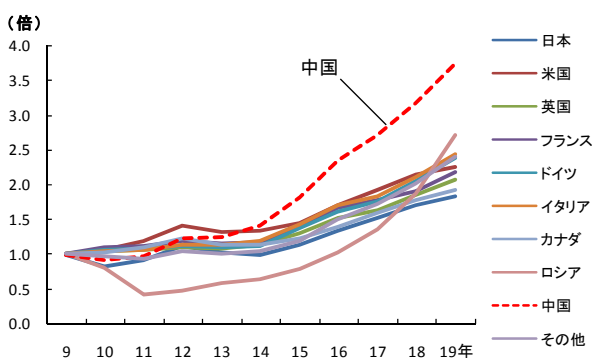


##### 対世界輸出額の構成比

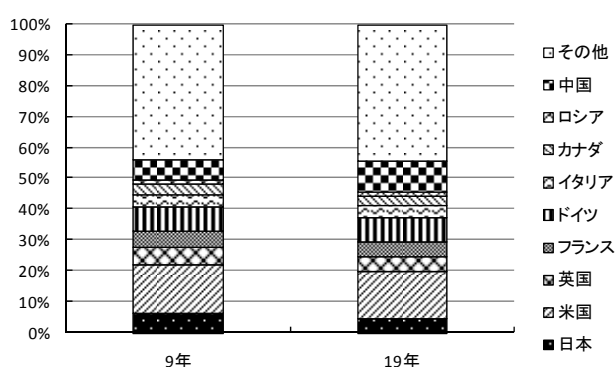


#### <輸入額>

##### 対世界輸入額の対9年比



##### 対世界輸入額の構成比



(注) 中国の貿易額については、中国・香港間の貿易額は除外した。  
資料:「世界の統計」(総務省)、「World Trade Atlas」(米GTI社)

### ③日本及び中国からの米国、新興国との貿易額の推移

～近年の米国、BRICs、VISTAとの貿易額は、

総じて中国が日本を上回る～

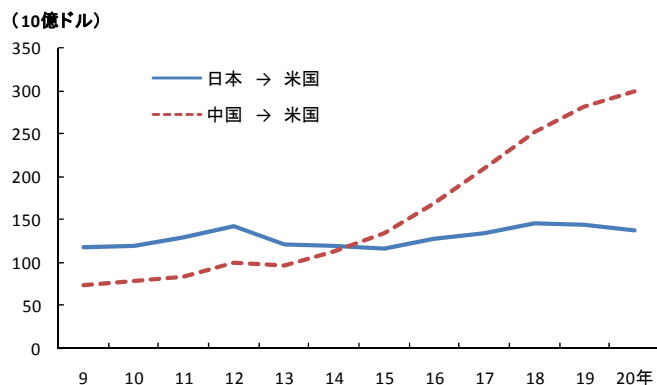
米国、BRICs(除く中国)、VISTAと日本間の貿易額を、伸張著しい中国の貿易額と比較してみた。

日本及び中国からの輸出額をみると、米国向け、BRICsのうちブラジル+ロシア+インド向け、VISTA向けともに、近年は中国の輸出額が日本の輸出額を大きく上回っている。一方、輸入額をみると、VISTAからの輸入額は日本が中国を上回って推移しているものの、米国、BRICsのうちブラジル+ロシア+インドからの輸入額は、近年は中国が日本を上回っている(第Ⅱ-3-10図)。

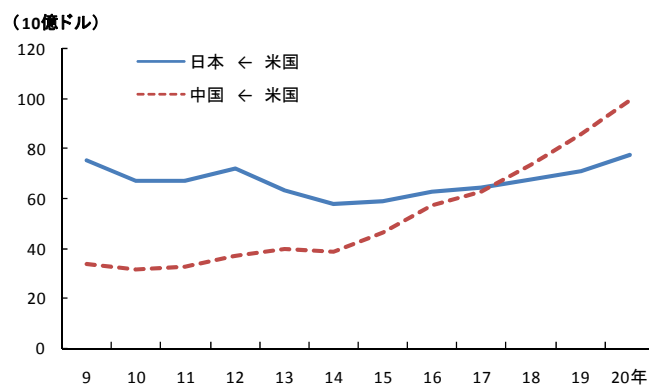
念のため、BRICs、VISTAの各国(貿易統計で貿易主体国として把握できる国に限定される)について、国別輸入額(19年)に占める中国からの輸入額の順位をみると、ブラジルの輸入額では中国は2位(1位は米国)、インドでは1位、インドネシアでは2位(1位はシンガポール)、アルゼンチンでは3位(1位はブラジル、2位は米国)となっており、中国の輸出額は、相手国側の輸入からみてもその大きさが顕著である。

第Ⅱ-3-10図 日本及び中国の貿易額の推移

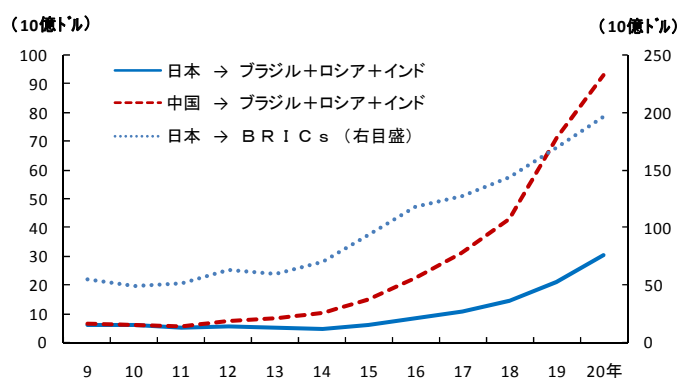
米国向け輸出額



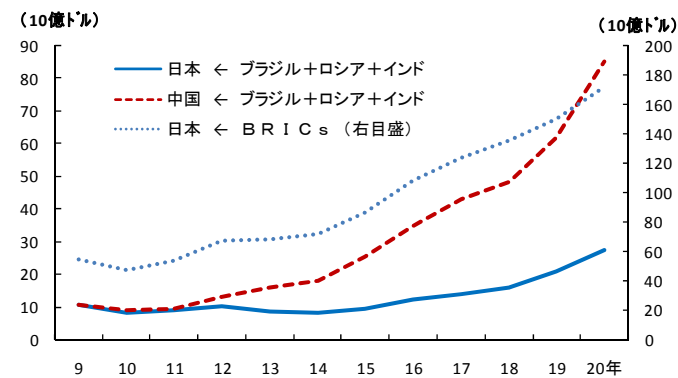
米国からの輸入額



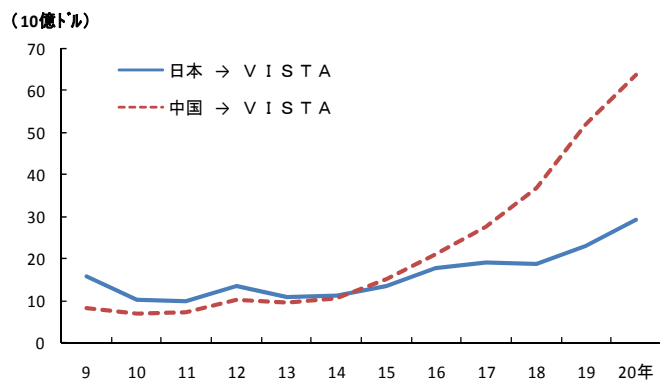
BRICs向け輸出額



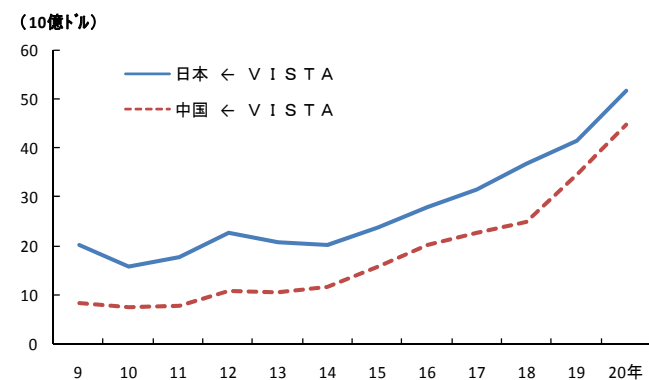
BRICsからの輸入額



VISTA向け輸出額



VISTAからの輸入額



(注) 1. 中国は、中国・香港間の貿易額は除外した。

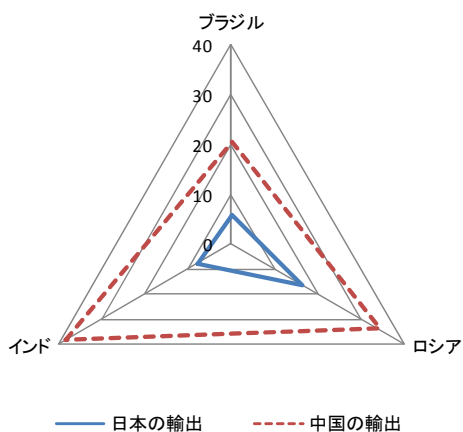
2. A→Bは、AのB向けの輸出を表し、A←Bは、AのBからの輸入を表す(以下同様)。

資料:「World Trade Atlas」(米GTI社)

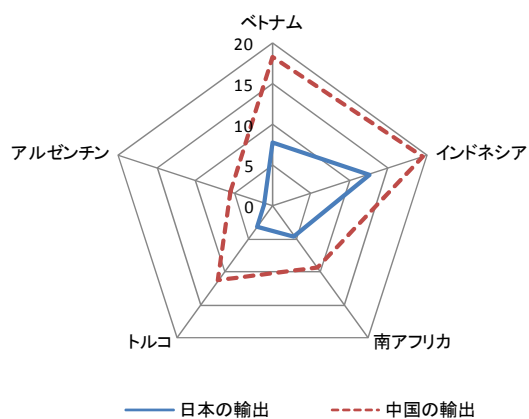
BRICsのうちブラジル、ロシア、インド向け、VISTA向けの20年の日本及び中国からの輸出額を国別に比較すると、いずれも中国の輸出額が日本の輸出額を大きく上回る(第Ⅱ-3-11図)。

第Ⅱ-3-11図 日本及び中国の新興国向け輸出額(20年、単位 10 億ドル)

BRICsのうちブラジル、ロシア、インド向け輸出額



VISTA向け輸出額

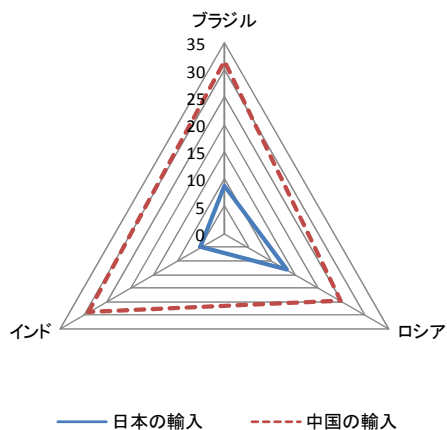


資料:「World Trade Atlas」(米GTI社)

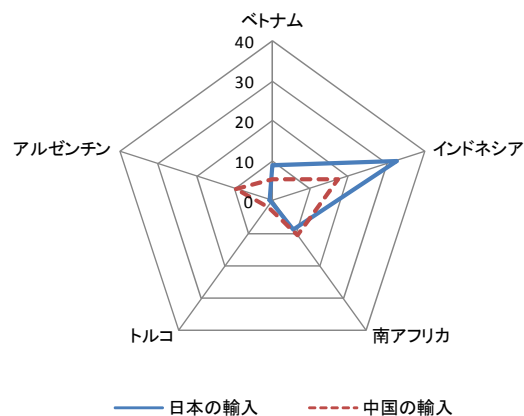
一方、これらの国からの日本及び中国の輸入額を比較すると、BRICsのうちブラジル、ロシア、インドは、いずれの国も日本の輸入額に比べ中国の輸入額が大きく、VISTAは日本の輸入額の方が大きいのはインドネシア、ベトナムのみとなっている(第Ⅱ-3-12図)。

第Ⅱ-3-12図 日本及び中国の新興国からの輸入額(20年、単位 10 億ドル)

BRICsのうちブラジル、ロシア、インドからの輸入額



VISTAからの輸入額

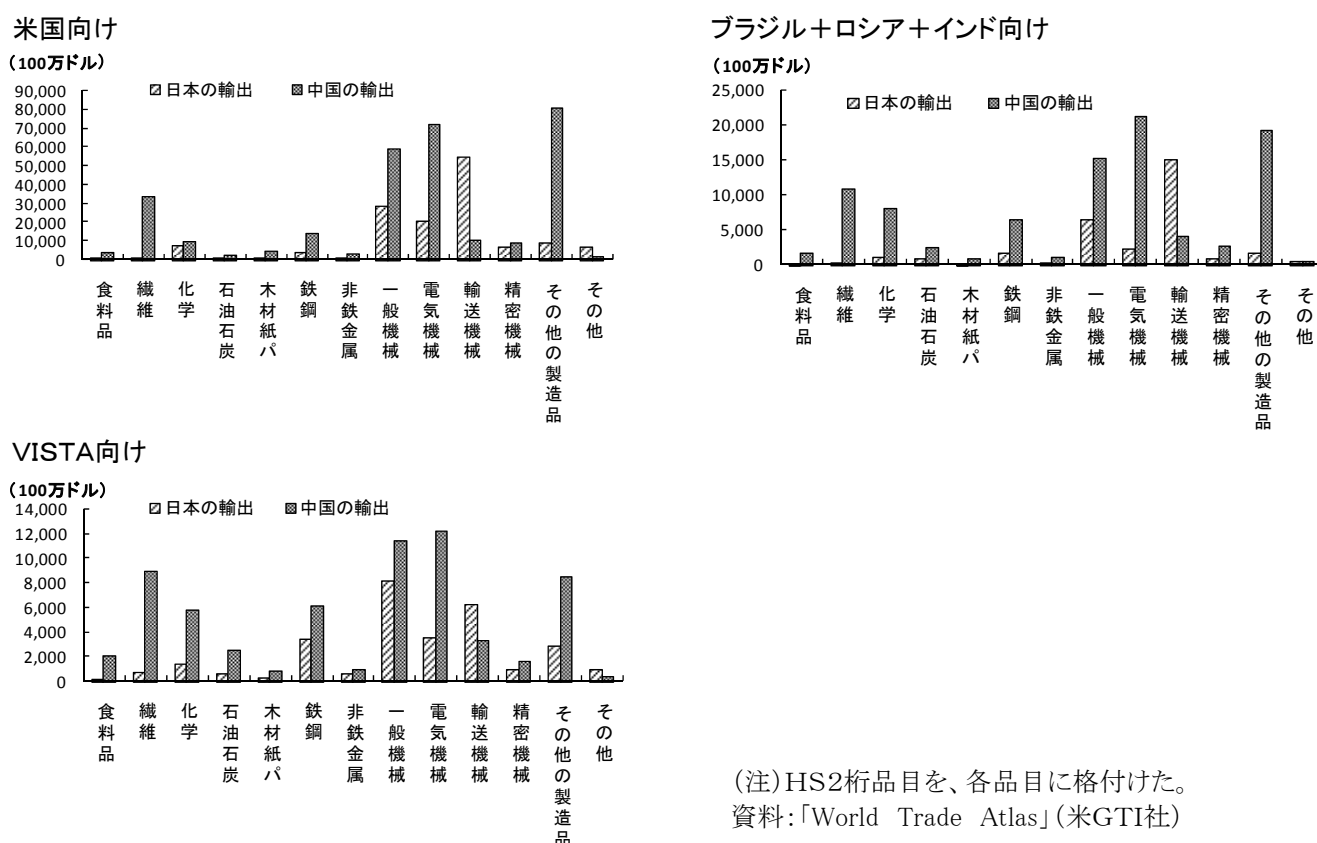


資料:「World Trade Atlas」(米GTI社)



このように、特にBRICs及びVISTA各国向けの輸出額で、日本に比べて中国からの輸出額が大きい。そこで、日本及び中国の輸出額(20年)を品目別に比較すると、日本の輸出は輸送機械、一般機械などの機械品目に集中する傾向があるが、中国は電気機械、一般機械と並んでその他の製造品も大きく、繊維などの輸出も比較的大きく、中国は日本に比べ輸出品目に広がりが見られる。また、日本の輸出額の方が中国を上回っているのはほぼ輸送機械のみという状況である(第Ⅱ-3-13図)。

第Ⅱ-3-13図 日本及び中国の輸出額比較(20年)



(注)HS2桁品目を、各品目に格付けた。  
資料:「World Trade Atlas」(米GTI社)

#### ④日本及び中国からの米国、新興国向け輸出額の上位品目

～日本及び中国ともに機械品目が上位にランキング～

日本及び中国の輸出額の上位3品目(20年)をみてる。

日本の米国向け及びブラジル+ロシア+インド向け輸出額は、輸送機械、一般機械、電気機械の順に大きく、VISTA向けは一般機械、輸送機械、電気機械の順となっており、日本の輸出は機械品目の割合が大きい(第Ⅱ-3-8表)。

中国は米国向け、ブラジル+ロシア+インド向けともに、その他の製造品、電気機械、一般機械が大きい(米国向けのその他の製造品は、がん具、家具・寝具、履物等が、ブラジル+ロシア+インド向けのその他の製造品は、ダイヤモンド(工業用以外のもの)、

プラスチック製品、履物等が大きい)。また、VISTA向けは電気機械、一般機械、繊維の順となっている。このように、中国も輸出額の大きさでみると電気機械、一般機械といった機械品目が上位にランクされる傾向にある。

なお、日本からロシア向けの輸出において輸送機械の構成比(77.4%)が大きいですが、これはHS8703(乗用車)の影響であり、HS8703のうち中古車が約3割(台数ベース<sup>注)</sup>では約5割)を占めている。

第Ⅱ-3-8表 日本及び中国の米国、新興国向け輸出額の上位3品目(20年)

	日本の輸出		中国の輸出		
	輸出額 (100万ドル)	構成比 (%)	輸出額 (100万ドル)	構成比 (%)	
米国向け					
計	137,396	100.0	計	298,579	100.0
輸送機械	54,095	39.4	その他の製造品	79,931	26.8
一般機械	28,455	20.7	電気機械	71,341	23.9
電気機械	20,082	14.6	一般機械	58,732	19.7
ブラジル+ロシア+インド向け					
計	30,306	100.0	計	93,057	100.0
輸送機械	14,950	49.3	電気機械	21,088	22.7
一般機械	6,418	21.2	その他の製造品	19,194	20.6
電気機械	2,273	7.5	一般機械	15,045	16.2
ブラジル向け					
計	5,923	100.0	計	20,426	100.0
一般機械	1,945	32.8	電気機械	5,804	28.4
輸送機械	1,620	27.3	一般機械	3,260	16.0
電気機械	625	10.6	その他の製造品	2,473	12.1
ロシア向け					
計	16,493	100.0	計	34,114	100.0
輸送機械	12,764	77.4	その他の製造品	8,991	26.4
一般機械	1,804	10.9	繊維	6,925	20.3
その他の製造品	558	3.4	電気機械	5,449	16.0
インド向け					
計	7,890	100.0	計	38,516	100.0
一般機械	2,669	33.8	電気機械	9,836	25.5
電気機械	1,092	13.8	その他の製造品	7,731	20.1
鉄鋼	1,018	12.9	一般機械	7,292	18.9
VISTA向け					
計	29,166	100.0	計	63,841	100.0
一般機械	8,106	27.8	電気機械	12,149	19.0
輸送機械	6,190	21.2	一般機械	11,333	17.8
電気機械	3,526	12.1	繊維	8,833	13.8
うちベトナム向け					
計	7,831	100.0	計	18,356	100.0
一般機械	1,895	24.2	繊維	3,018	16.4
電気機械	1,287	16.4	一般機械	2,882	15.7
鉄鋼	1,259	16.1	電気機械	2,608	14.2
うちインドネシア向け					
計	12,615	100.0	計	19,392	100.0
一般機械	3,570	28.3	電気機械	4,155	21.4
輸送機械	2,072	16.4	一般機械	3,794	19.6
鉄鋼	1,931	15.3	繊維	2,305	11.9

(注) 1. HS2桁品目を、各品目に格付けた。

2. 機械品目に網掛けを施した。

資料:「World Trade Atlas」(米GTI社)

### ⑤日本及び中国からの米国、新興国向け輸出品目の比較

～日本及び中国の米国向け一般機械は輸出品目の構成比の類似性が低下～

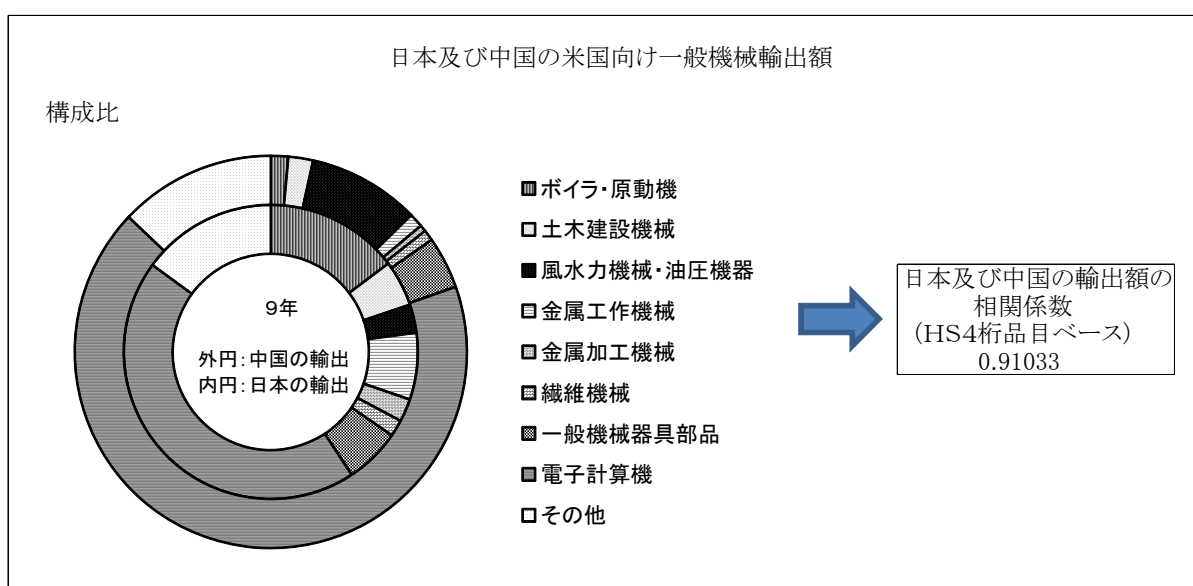
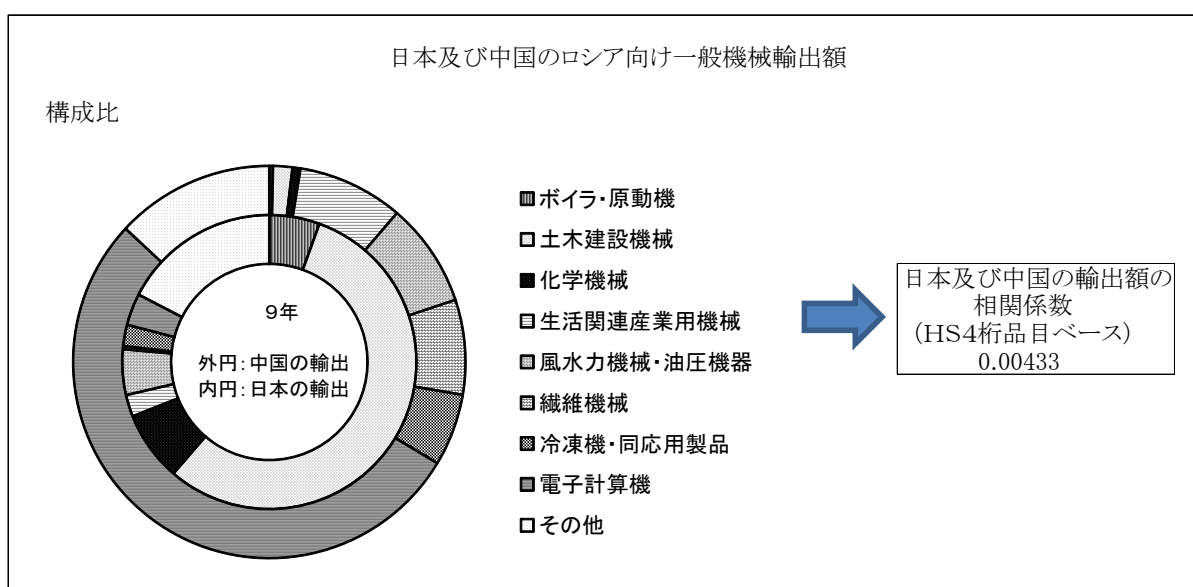
前述のように、20年の米国、新興国向け輸出額では、日本は輸送、一般及び電気機械が大きく、中国も電気及び一般機械の輸出額が大きい。そこで、日本及び中国からの米国、新興国向け輸出における一般及び電気機械について、ある1時点における日本

注) 台数ベースは、数量が台数で把握できる品目のみについて計算した。

の輸出品目、中国の輸出品目の構成比が相互に類似性を有しているか、すなわち競争性があるかについて、両国の輸出商品の構造を比較するためにHS4桁品目ベースで日本及び中国の輸出額の相関係数を求めるとともに、9年から20年の各年についてそれらを時系列で並べてみた。この相関係数が1に近いほど日本及び中国の輸出品目構造が類似しており、0に近ければ輸出品目構造が異なることを示すものと考えられる(参考を参照)。

### 参考 輸出品目構成の類似性と相関係数(例示)

日本及び中国の輸出品目の構成比が相互に類似性を有していると、両国の輸出額(HS4桁品目ベース)の相関係数が高くなる傾向がある。



(注) 構成比はHS4桁品目を便宜的に統合したもので、構成比の小さい品目はその他に含めている。

資料:「World Trade Atlas」(米GTI社)

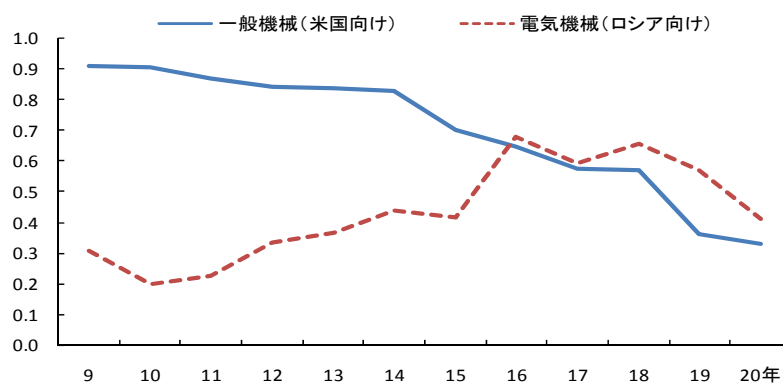
なお、この相関係数は、輸出品目分類が細分化されるほど低くなる傾向があるため、同一品目分類（日本標準産業分類の細分類ベースに類似したHS4桁品目）で計測した。また、輸出品目構造の変化は、日本及び中国からの輸出品目の品質及び価格の変化や、輸入国側の需要構造の変化などが影響することも考えられるが、ここでは主に輸出金額の変化のみに着目した。

### ⑤－1 日本及び中国の米国、ロシア向け輸出額のHS4桁品目ベースの相関係数

日本及び中国からの米国向けの一般機械輸出、ロシア向けの電気機械輸出について、日本及び中国の輸出額の相関係数を求めた（相関係数が複数時点で0.6を超え、かつ、9年と20年で比較的差が大きい国及び品目を抽出した）。一般機械は、米国向け輸出において日本と中国からの輸出額の相関係数がほぼ一貫して低下しており、日本及び中国の輸出品目の構成比の類似性が低下している。

電気機械は、ロシア向け輸出において総じて18年まで、輸出額の相関係数が上昇傾向で推移しており、日本及び中国の輸出品目の構成比の類似性が上昇したものの、19年以降はその類似性が低下している（第Ⅱ－3－14図）。

第Ⅱ－3－14図 日本及び中国の米国、ロシア向け輸出額の相関係数



(注) 1. HS4桁品目ベースで日本及び中国の輸出額の相関係数を計算したものである。  
 2. 相関係数が複数時点で0.6を超え、9年と20年で比較的差が大きい国について描画した。  
 資料:「World Trade Atlas」(米GTI社)

### ⑤－2 日本及び中国の米国向け一般機械の輸出額

このような輸出品目の構成比の類似性の変化要因となった品目を確認するため、一般機械の米国向け輸出について、品目数の多いHS4桁品目を便宜的に統合し、構成比を確認した。

一般機械の米国向け輸出において、日本及び中国の輸出品目の構成比の類似性

が低下している要因は、主に電子計算機の輸出額の影響である。同品目の中国から米国向けの輸出額における割合は9年、20年ともに60%台を維持しているが、日本からの輸出額における割合は9年(44.4%)から20年(7.7%)と大きく縮小している(第Ⅱ-3-9表)。

第Ⅱ-3-9表 日本及び中国の輸出額及び構成比の比較(一般機械の米国向け)

	9年				20年			
	日本→米国		中国→米国		日本→米国		中国→米国	
	(100万ドル)	構成比(%)	(100万ドル)	構成比(%)	(100万ドル)	構成比(%)	(100万ドル)	構成比(%)
一般機械計	31,208	100.0	6,458	100.0	28,455	100.0	58,732	100.0
ボイラ・原動機	4,600	14.7	92	1.4	5,813	20.4	1,885	3.2
土木建設機械	1,577	5.1	132	2.0	2,323	8.2	1,743	3.0
化学機械	542	1.7	29	0.4	747	2.6	662	1.1
生活関連産業用機械	629	2.0	18	0.3	5,580	19.6	5,371	9.1
半導体・フラットパネル製造装置	0	0.0	0	0.0	1,826	6.4	126	0.2
風水力機械・油圧機器	975	3.1	597	9.2	1,325	4.7	2,266	3.9
運搬機械	313	1.0	17	0.3	555	1.9	223	0.4
農業用機械	21	0.1	10	0.2	42	0.1	476	0.8
金属工作機械	2,290	7.3	75	1.2	2,327	8.2	325	0.6
金属加工機械	785	2.5	35	0.5	676	2.4	367	0.6
繊維機械	572	1.8	58	0.9	168	0.6	377	0.6
冷凍機・同応用製品	219	0.7	68	1.1	296	1.0	1,998	3.4
機械工具	203	0.7	8	0.1	231	0.8	1,416	2.4
その他の一般機械	439	1.4	11	0.2	287	1.0	113	0.2
一般機械器具部品	1,911	6.1	277	4.3	2,673	9.4	3,324	5.7
電子計算機	13,845	44.4	4,357	67.5	2,188	7.7	36,221	61.7
その他	2,287	7.3	672	10.4	1,397	4.9	1,841	3.1

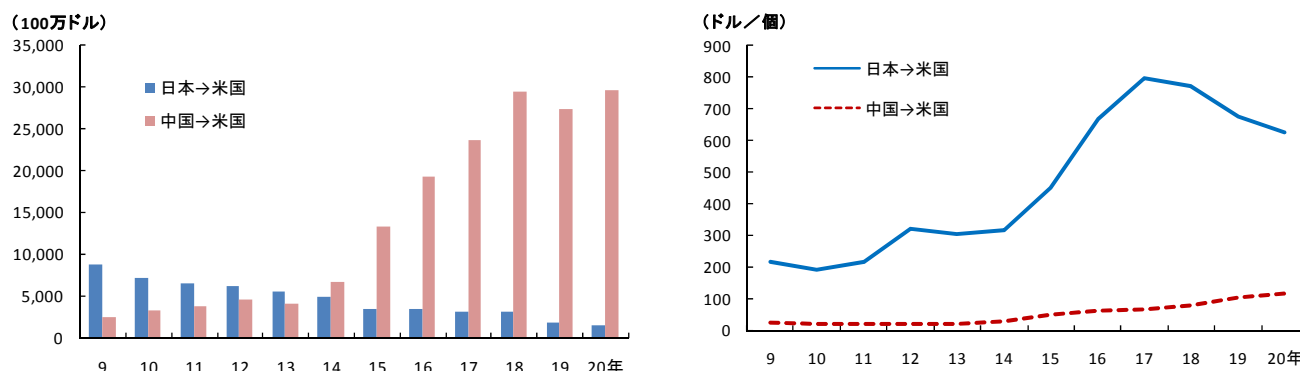
(注) 文中で参照している品目に網掛けを施した。  
資料:「World Trade Atlas」(米GTI社)

この電子計算機のなかでは、HS8471(パソコンを含む自動データ処理機械等)の影響が大きい(HS2桁品目でパソコンを含む自動データ処理機械等はHS84の一般機械に分類されており、本稿でもそれを踏襲している)。

HS8471のなかでは、9年は日本はHS847170(記憶装置)、中国はHS847160(入出力装置)の輸出額が最も大きかったが、20年は日本、中国ともHS847130(ノートパソコン等)の輸出額が最も大きい。中国は15年以降、輸出額が大きく拡大しており、これはHS847130の輸出が急増したことによる。なお、HS8471の輸出単価は、日本が中国を上回り、大きく上昇となった(第Ⅱ-3-15図)。

## 第Ⅱ-3-15図 日本及び中国の米国向け輸出額と輸出単価の推移

HS8471(パソコンを含む自動データ処理機械等)



(注) 単価は数量、金額ともに存在するHS6桁品目から求めた。

資料:「World Trade Atlas」(米GTI社)

### ⑤-3 日本及び中国のロシア向け電気機械の輸出額

日本及び中国のロシア向け電気機械輸出額についても、HS4桁品目を統合して構成比を確認した。

電気機械のロシア向け輸出において、日本及び中国の輸出品目の構成比の類似性が総じて18年まで上昇した要因は、主に通信機械の輸出額の影響である。同品目の日本からロシア向けの輸出額における割合は9年が約5割、18年が約7割と大きなシェアを占めるが、中国からの輸出額における割合は9年(3.5%)から18年(27.3%)と大きく拡大している(第Ⅱ-3-10表)。

その後、20年にかけて輸出品目の構成比の類似性が低下した要因も主に通信機械の影響である。ただし、これはHS品目分類改正の影響が考えられる<sup>注)</sup>ため、ここではこれ以上は触れないこととする。

第Ⅱ-3-10表 日本及び中国の輸出額及び構成比の比較(電気機械のロシア向け)

	9年		18年		20年	
	日本→ロシア (100万ドル)	構成比(%)	中国→ロシア (100万ドル)	構成比(%)	日本→ロシア (100万ドル)	構成比(%)
電気機械計	249	100.0	149	100.0	316	100.0
回転電気機械	2	0.7	2	1.2	8	2.4
静止電気機械	1	0.5	0	0.0	2	0.5
開閉制御装置・機器	3	1.0	1	0.6	4	1.1
民生用電気機械	4	1.7	17	11.7	15	4.7
配線・照明用器具	1	0.4	2	1.1	3	0.9
電池	3	1.3	6	3.9	3	0.9
通信機械	113	45.4	5	3.5	219	69.4
民生用電子機械	99	39.9	95	63.8	27	8.6
電子部品	10	4.1	14	9.1	10	3.2
半導体素子	0	0.1	1	0.3	2	0.6
集積回路	0	0.0	1	0.6	1	0.2
その他	12	4.9	6	3.9	23	7.3

(注) 文中で参照している品目に網掛けを施した。

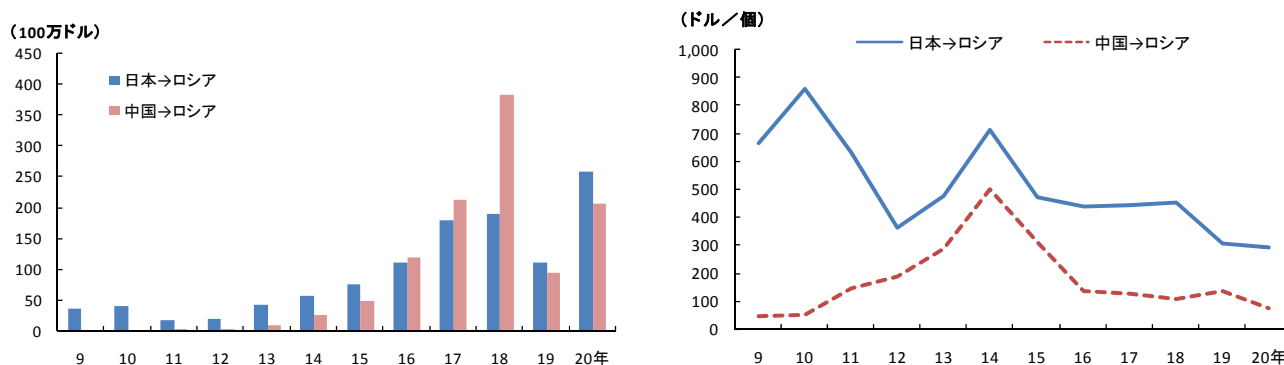
資料:「World Trade Atlas」(米GTI社)

注) 通信機械のうちHS8517(電話機等)の中国からロシア向けの輸出額が19年以降急増している。当該品目は19年に品目改正があり、LAN又はWAN用の通信機器などが追加されている。

日本及び中国からのロシア向け電気機械輸出品目の構成比の類似性が総じて18年まで上昇した要因として、通信機械に含まれるHS8525(ラジオ放送用又はテレビジョン用の送信機器等)の影響が大きい。HS8525 のなかでは、9年は日本、中国ともにHS852520(送信機器)の輸出額が、18年は日本がHS852540(デジタルカメラ等)、中国がHS852520 の輸出額が最も大きい。なお、HS8525 の輸出単価は、日本は中国に比べ高いものの低下傾向で推移している(第Ⅱ-3-16図)。

第Ⅱ-3-16図 日本及び中国のロシア向け輸出額と輸出単価の推移

HS8525(ラジオ放送用又はテレビジョン用の送信機器等)



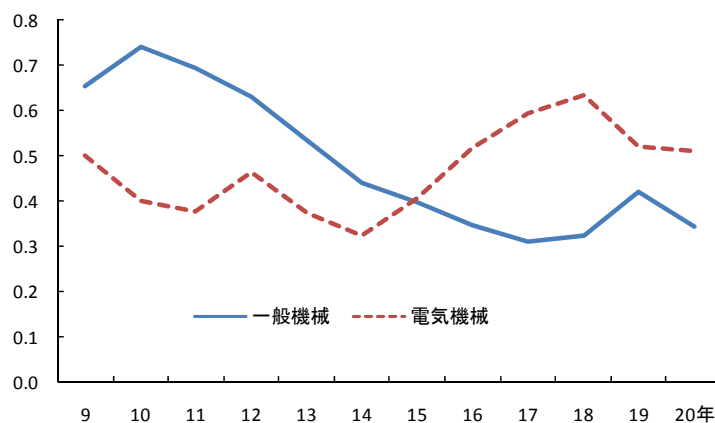
(注)単価は数量、金額ともに存在するHS6桁品目から求めた。

資料:「World Trade Atlas」(米GTI社)

#### ⑤-4 日本と中国間の一般機械の輸出額

上記と同様に、日本と中国間の輸出額のHS4桁品目ベースの相関係数(一般機械、電気機械)をみると、一般機械で輸出品目の構成比の類似性が低下している(第Ⅱ-3-17図)。

第Ⅱ-3-17図 日本と中国間の輸出額の相関係数



(注)HS4桁品目ベースで日本、中国の輸出額の相関係数を計算したものである。

資料:「World Trade Atlas」(米GTI社)

一般機械の日本、中国間輸出において、日本及び中国からの輸出品目の構成比の類似性の低下は、主に電子計算機の輸出額の影響である。同品目の中国からの輸出額における割合は9年が約6割、20年が約4割と大きな割合を維持しているが、日本からの輸出額における割合は9年(16.2%)から20年(6.4%)と縮小している(第Ⅱ-3-1表)。

第Ⅱ-3-11表 輸出額及び構成比の比較(一般機械の日本と中国間)

	9年				20年			
	日本→中国		中国→日本		日本→中国		中国→日本	
	(100万ドル)	構成比(%)	(100万ドル)	構成比(%)	(100万ドル)	構成比(%)	(100万ドル)	構成比(%)
一般機械計	9,135	100.0	2,459	100.0	28,352	100.0	21,491	100.0
ボイラ・原動機	730	8.0	49	2.0	3,243	11.4	946	4.4
土木建設機械	538	5.9	64	2.6	2,711	9.6	984	4.6
化学機械	341	3.7	40	1.6	972	3.4	525	2.4
生活関連産業用機械	292	3.2	27	1.1	2,823	10.0	3,064	14.3
半導体・フラットパネル製造装置	0	0.0	0	0.0	2,042	7.2	56	0.3
風水力機械・油圧機器	446	4.9	133	5.4	1,618	5.7	780	3.6
運搬機械	605	6.6	17	0.7	497	1.8	121	0.6
農業用機械	25	0.3	2	0.1	60	0.2	89	0.4
金属工作機械	527	5.8	38	1.5	1,995	7.0	359	1.7
金属加工機械	536	5.9	37	1.5	1,309	4.6	343	1.6
繊維機械	945	10.3	80	3.2	1,315	4.6	709	3.3
冷凍機・同応用製品	548	6.0	70	2.8	504	1.8	2,135	9.9
機械工具	15	0.2	1	0.0	137	0.5	158	0.7
その他の一般機械	379	4.2	23	1.0	921	3.2	242	1.1
一般機械器具部品	765	8.4	166	6.7	2,747	9.7	1,350	6.3
電子計算機	1,479	16.2	1,455	59.2	1,805	6.4	8,972	41.7
その他	963	10.5	256	10.4	3,654	12.9	658	3.1

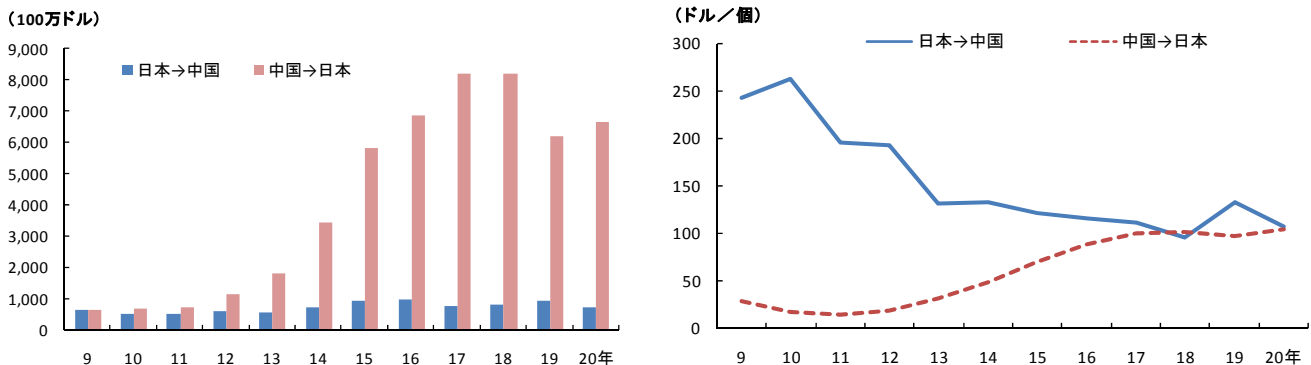
(注) 文中で参照している品目に網掛けを施した。

資料:「World Trade Atlas」(米GTI社)

この電子計算機のなかでは、HS8471(パソコンを含む自動データ処理機械等)の影響が大きい。HS8471のなかでは、9年は日本、中国ともにHS847160(入出力装置)の輸出額が最も大きかったが、20年は日本、中国ともにHS847130(ノートパソコン等)の輸出額が最も大きい。中国はHS847130の影響で輸出額が増大している。なお、HS8471の輸出単価は、日本が低下、中国が上昇となった(第Ⅱ-3-18図)。

第Ⅱ-3-18図 日本と中国間の輸出額と輸出単価の推移

HS8471(パソコンを含む自動データ処理機械等)



(注) 単価は数量、金額ともに存在するHS6桁品目から求めた。

資料:「World Trade Atlas」(米GTI社)



このように、輸出品目構成の比較において中国から米国、日本向けにHS847130(ノートパソコン等)の輸出が急速に拡大していることが特徴的である。なお、日本からの中国向け輸出額において9年から20年にかけて最も増加寄与度の大きかったHS4桁品目は、HS8542(集積回路)である<sup>注1)</sup>。このことから、日本を含む海外資本による中国向け直接投資の増加によって加工・組立基地としての中国の役割が進展したことを背景に、日本から中国に集積回路などの部品を供給し、現地で完成品に組立て、米国向けに輸出する三角貿易や日本向けの逆輸入が拡大したことなどが、日本及び中国の輸出品目構成の類似性の変化に影響していることが考えられる。

## ⑥日本及び中国のブラジル、ロシア、インドからの輸入額

～資源国の中国は旺盛な国内需要に対応し、原油、鉄鉱石などの輸入が増加～

前述のように、中国は日本に比べて、ブラジル、ロシア、インドからの輸入額が著しく大きい。これについて、日本及び中国のブラジル、ロシア、インドからの輸入額の上位3品目(20年)をみってみる(第Ⅱ-3-12表)。

中国は、ブラジル及びインドからのその他(いずれもHS2601:鉄鉱石など)の輸入額が大きく、インドからのその他の製造品(HS7102:ダイヤモンドなど)<sup>注2)</sup>の輸入額も大きい。また、中国、日本ともにロシアからの石油石炭(いずれもHS2709:原油など)の輸入

第Ⅱ-3-12表 日本及び中国のブラジル、ロシア、インドからの輸入額の上位3品目(20年)

		日本の輸入		中国の輸入		
		輸入額 (100万ドル)	構成比 (%)		輸入額 (100万ドル)	構成比 (%)
ブラジル	計	8,701	100.0	計	31,509	100.0
	その他	4,716	54.2	その他	22,679	72.0
	食料品	1,819	20.9	食料品	2,887	9.2
	非鉄金属	721	8.3	石油石炭	1,887	6.0
ロシア	計	13,331	100.0	計	24,613	100.0
	石油石炭	7,818	58.6	石油石炭	12,037	48.9
	非鉄金属	2,116	15.9	木材紙パ	3,860	15.7
	その他	1,343	10.1	その他	2,488	10.1
インド	計	5,236	100.0	計	28,922	100.0
	その他	1,279	24.4	その他	14,627	50.6
	石油石炭	1,231	23.5	その他の製造品	9,283	32.1
	食料品	597	11.4	繊維	1,441	5.0

資料:「World Trade Atlas」(米GTI社)

注1) 9年から20年にかけての日本からの中国向け輸出額 238.1%の伸びのうち、HS8542(集積回路)が約1割の増加寄与を占める。

注2) HS71 の品目名は、「天然又は養殖の真珠、貴石、半貴石、貴金属及び貴金属を張った金属並びにこれらの製品、身辺用模造細貨類並びに貨幣」であるため、ここではその他の製造品に格付けており、下位品目のHS7102(ダイヤモンドなど)も同様の扱いとした。

額が大きい。中国は原油、鉄鉱石などを産出する資源国であるが、ブラジル、ロシア、インドからの輸入額において鉱物及び燃料の割合が大きいことがわかる。

中国のブラジル及びインドからの鉄鉱石の輸入額はほぼ前年を上回りながら推移している。従来は、数量要因の増加寄与が大きかったが、近年は単価要因の増加寄与が目立っている。近年の中国は、ブラジル、インドからの輸入額の約半分を鉄鉱石が占めている(第Ⅱ-3-19図)。

なお、16年現在で中国(除く香港)は、世界第3位の鉄鉱石生産国となっているが、15年以降、世界最大の鉄鉱石輸入国となっている。鉄鉱石は粗鋼の原料となる銑鉄生産などに使用されるが、20年の中国における粗鋼生産量は、世界全体の粗鋼生産量の約4割を占めている(「主要国の粗鋼生産」(社団法人日本鉄鋼連盟)及び「世界の統計」(総務省))。中国は旺盛な鉄鋼需要に伴い、産出した鉄鉱石を国内で消費しており、鉄鉱石の国内生産で賄えない需要分を輸入で補っているものとみられる。

中国のインドからのダイヤモンド輸入額は14年以降、増加傾向で推移しており、近年は数量要因による増加が目立つ。インドからの輸入額に占める当該品目の割合は低下している。なお、ダイヤモンドの輸入のうちほとんどがHS710239(工業用ダイヤモンド以外)の輸入となっている。

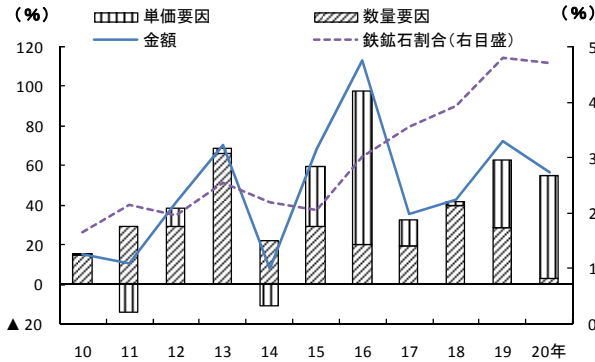
ロシアからの原油輸入額は、中国は11年、12年に大きな伸びとなったがその後伸びは鈍化傾向で推移している。日本はロシアからの原油輸入は13年からみられ、15年、19年は大きく伸張した。中国、日本ともに20年は単価要因による増加となっている。中国、日本ともに近年はロシアからの輸入額の約3割を原油が占めている。

なお、20年現在で中国(除く香港)は世界第5位の原油生産国となっているが、16年以降、中国は世界第3位の原油輸入国となっている(「世界の原油生産量」(石油連盟)及び「世界の統計」(総務省))。中国は原油の国内生産で賄えない需要分を輸入で補っているものとみられる。

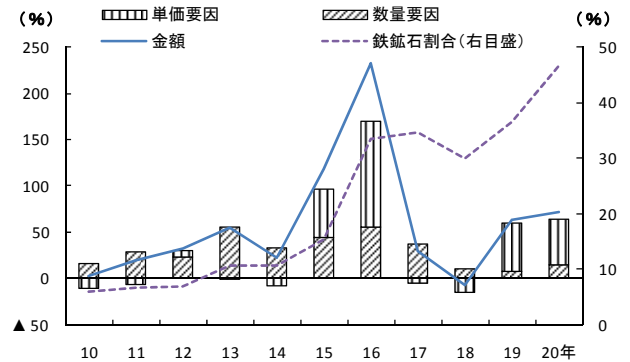
中国のこのような鉄鉱石、原油等の輸入額の増加は、中国の工業化の進展に伴う需要拡大や国際市況高騰の影響等が推察される。

第Ⅱ-3-19図 中国、日本の各国からの鉱物及び燃料輸入額の前年比寄与度の推移

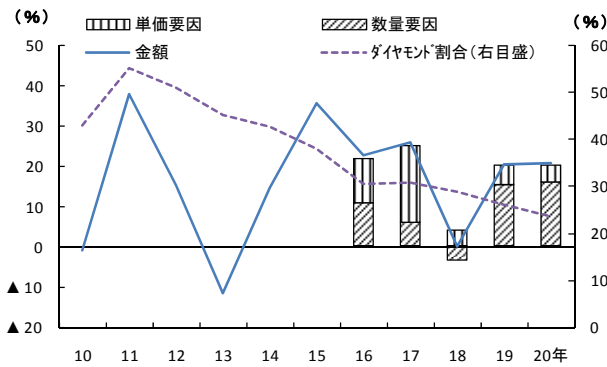
中国のブラジルからの鉄鉱石輸入額



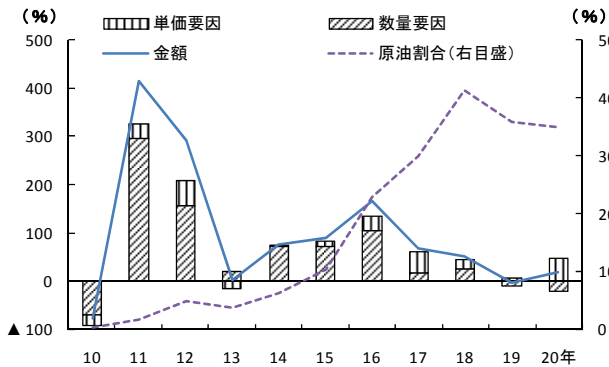
中国のインドからの鉄鉱石輸入額



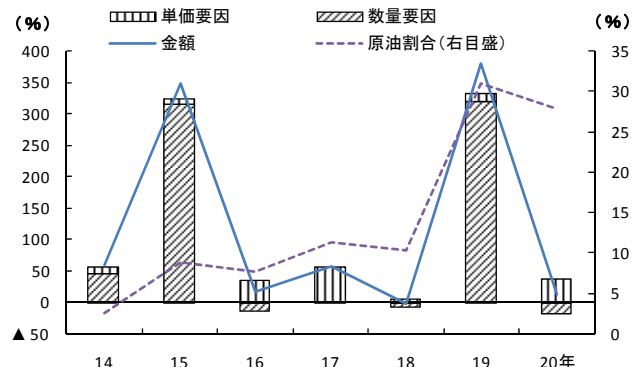
中国のインドからのダイヤモンド輸入額



中国のロシアからの原油輸入額



日本のロシアからの原油輸入額



- (注) 1. 各割合は、中国や日本と、相手国との輸入額計に占める当該品目輸入額の割合(実数値)である。  
 2. 中国のインドからのダイヤモンド輸入額は15年までは数量単位が異なるため、要因分解は16年以降について行った。  
 3. 日本のロシアからの原油輸入額は13年以降実績値がある。  
 4. 輸入額の伸び率寄与度は、輸入額の伸びに対する輸入単価及び数量の寄与度であり、輸入単価(A)、輸入数量(B)、輸入額(Y)について、 $Y=A \times B$  に基づき、 $\Delta Y \approx (\Delta A \cdot B) + (A \cdot \Delta B)$  により求めた。

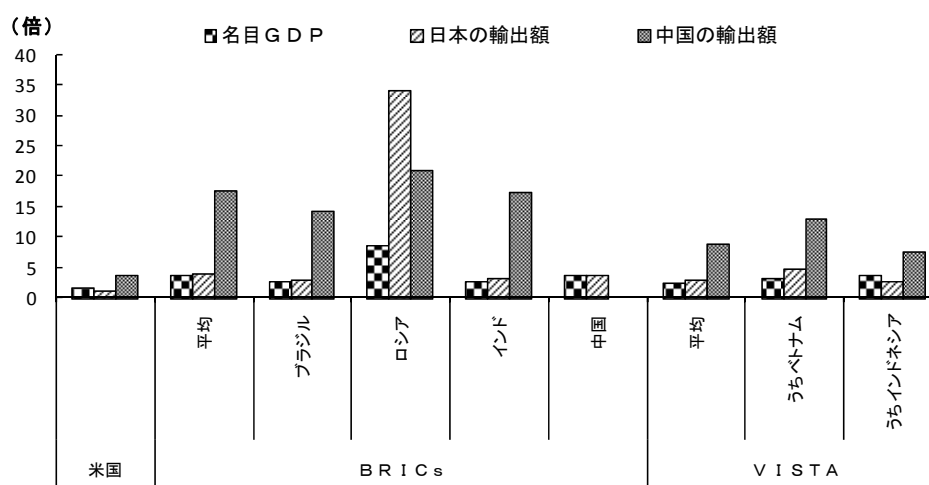
資料:「World Trade Atlas」(米GTI社)

⑦日本及び中国からの輸出額と各国のGDP

～各国の名目GDPの伸びに伴い、日本及び中国からの輸出額も総じて増加～

日本及び中国からの米国、新興国向け輸出額と、当該各国の20年の名目GDPを11年と比べると、名目GDPの伸びに伴い、日本及び中国からの輸出額も総じて増加しているが、ロシアを除き、中国からの輸出額の伸びが日本の伸びを上回っている。日本のロシア向け輸出額は前述のようにHS8703(乗用車)の影響により増大している(第Ⅱ-3-20図)。

第Ⅱ-3-20図 各国の名目GDPと日本及び中国からの輸出額の比較  
(ドルベース、20年の対11年比)



(注) 中国向け輸出額は、日本の輸出額のみ計上した。

資料:「国・地域別情報(J-FILE)」(JETRO)、「World Trade Atlas」(米GTI社)

### (3) まとめ

日本の21年7~9月期の輸出額は、BRICs、アジア、北米向けの増加寄与が大きく、BRICs向けの伸びは主に中国向けの輸送及び電気機械、アジア向けの伸びは主に韓国向けの一般機械及びその他の製造品、台湾向けのその他の製造品、タイ向けの鉄鋼、輸送機械及び電気機械の増加によるものであり、米国向けの伸びは主に輸送機械の増加によるものである。

日本と中国の新興国に対する輸出額に着目すると、近年はブラジル、ロシア、インド向け、VISTA向けともに、中国が日本を大きく上回っている。

日本及び中国からの米国向け一般機械輸出や、日本と中国間の一般機械輸出における輸出品目の構成比については、従来は比較的類似性が高く、日本及び中国の一般機械輸出品に高い競合性が存在したことが推察される。しかし近年、その類似性は低下している。これは、中国から米国や日本向けにノートパソコン等の輸出が急速に拡大していることによる。この背景として、日本から中国に集積回路などの部品を供給し、

現地で完成品に組立て、米国向けに輸出する三角貿易や日本向けの逆輸入が拡大したことなどの影響が考えられる。

日本及び中国からのロシア向け電気機械輸出における輸出品目の構成比の類似性は18年まで上昇傾向で推移し、競争性が高まった。これは、日本及び中国からロシア向けに送信機器等の輸出が増加した影響が大きい。